

講演会レポート

笹川 貴吏子

6月7日（火）、長崎県対馬市と立教大学 ESD 研究所との間で、ESD 研究連携に関する覚書が締結されました。ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）による地域創生を目的とした大学と自治体の覚書締結は全国で初めての事例です。今回の覚書締結を受けて本学と同市は、今後、相互に協力し合いながら、ESD の実証研究を通じた地域創生の可能性について、研究プロジェクトを進めていきます。

記念すべき第一歩となった今回の調印式後には、「ESD による地域創生」をテーマに記念講演とトークセッションが行われました。最初に、ESD 研究所所長の阿部治教授より地域創生における ESD の役割とその重要性に関するお話がありました。阿部教授は、政府の掲げる現行の地方創生においては「ひとづくり」の視点が見落とされていると指摘。また、日本の農山村が直面している問題は当該地域のみ限定的な問題ではなく、持続可能な社会の実現を阻む全国規模の課題の一つであり、社会全体で向き合っていくべきであるとお話しされました。

続いて対馬市の比田勝尚喜市長からは、同市の地域づくり政策の軸の一つである「ひとづくり」についてお話しいただきました。同市では「自立と循環の宝の島」という将来像を掲げ、それを実現するために「ひとづくり」、「なりわいづくり」、「つながりづくり」、「ふるさとづくり」の四つの点から地域づくりに取り組んでいます。同市における「ひとづくり」のユニークな点は、地域子どもたちや若者だけではなく、島外からの移住・定住者に対する支援や、大学との連携による学生の受け入れといった「外部人材」までも対象としてひとづくりに取り組んでいる点です。これは、人口減少によって起こる地域力の衰退という悪循環から脱却するために、外からの力をうまく活用し、過疎化の進む地域において人、物、情報、知恵、金の流れを創出することで、地域づくりの好循環を生み出すことが目的にあります。実際に同市は、「島おこし協働隊」など、域学連携による外部人材の活用已成功しています。内外の力の有機的な結びつきが地域の抱える問題をも地域資源に変え、その資源を活用することによって、地域が「学びのエコアイランド」として新たな価値を生み出している様子が、比田勝市長のお話から窺えました。

講演会の後半では、対馬市を訪れたことのある来場者の方々からお話を伺うなど、会場も巻き込んだトークセッションが行われ、同市の持つ可能性や学びの要素について意見交換が行われました。実際に同市での地域づくり活動に参加した本学学生も、当時の体験を生き生きと語ってくれました。

今回の調印式と講演会の中で、とくに印象に残ったのは、阿部教授の「教育は学びであると同時に、関わりでもある」という言葉です。この講演会でも、地域内外の人々が一丸となって地域づくりに取り組む過程で、相互に学び合いながら成長を遂げていく様子を垣間見ることができました。阿部教授は、ESD を「つながりの教育」と表現しています。今

日の農山村の現状を ESD の視点から捉えたとき、地域住民だけではなく、地域から離れたところにいる私たちも、当事者意識を持って地域の現状を受け止め、共に学びながら地域との関わりの形を模索していくことが、地域づくりの中で求められているように思えました。

(ささかわ・きりこ 立教大学大学院社会学研究科博士課程後期課程)

※初出：<http://www.rikkyo.ac.jp/closeup/report/2016/0501.html>